



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第3号

徳島 1915年10月10日

戦争と技術（2）

飛行船に匹敵するものを、敵は我々に何ら対抗させることは出来ない。飛行機は短期間、ほとんどフランスの得意分野みたいだったが、その飛行機においても我々は上位にある。我々の工業は急速にこの課題も解決し、数々の新たな思考、新たな構造物をもたらしたので、我々の技術が戦闘における要求にも適って成長していたことを証明するために、ますますもって戦争を必要とすることはなかった。勇敢な飛行士の英雄的行為を聞いたときに我々は非常に満足し、ここの点で我々の方が凌いでいることを敵にも認めさせている。

空路交通の発展は我々に防御手段の創造を強い、第一に我々の兵器廠をして対空砲製造をもたらした。貨物車と乗用車を予期しなかったほど強力に活用することで我々の国道は、我々の鉄道を全く抜きん出た仕方で支え

ることが出来た。弾薬と糧食の補給のみならず、部隊輸送、命令並びに情報伝達にも自動車はフル回転で引っ張り出された。ここで忘れてならないことは、衛生医療面での自動車である。自動車のみが成し遂げることの出来る野戦病院への迅速な搬送のお陰で、どれほど多くの勇者の命が助かったであろう。

今日、自動車に対する軍隊の需要を賄う工場数は膨大であるが、ドイツの自動車産業における先駆的な工場の名前を若干挙げておくと、ダイムラー、オペル、ベンツ、アードラーである。

情報もまた最近のいくつかの戦争以来、無線電信の発明によって決定的な変化を遂げた。電話及び電信と並んで、戦場では無線電信が実に広範囲に用いられている。海軍にとってこの通信手段の意味が計り知れない価値があるのは、かつてはそもそも遠く離れた艦艇が互いに行き来する可能性に欠けているからであった。我々の敵がイタリア人マルコーニのシステムをわが物としている間、我々の陸軍と海軍においてはドイツのテレフンケン・システムが導入された。

その間我々は交戦国と中立国の新聞で、我々の部隊が今や遠く離れていても鉄条網を破壊することが出来る装置を意のままにしている、との記事を読んだ。ドイツ側からはそれに対して当然のことながら何も公表されなかった。多分我々はこの戦争中に、そもそも更にもっと驚くべき技術を期待することができるのだろう。

ここで我々の膨大な量の弾薬製造に言及しないわけにはいかない。なるほど新しい発明に関係するものではないが、この論文に一つの場所を占めるに値するものだ。我々の武器・弾薬工場が、今途方も無く高まっている各種類の弾薬への需要に応じ切れなかったのは明らかである。それゆえ、金属加工にかかわるわれわれの産業の大部分にこの課題を引き受けさせることが肝要であった。容易な事柄ではない。敵は今日なお、まだこの問題を満足の行くまで解決していないことを我々は知っている。しかし、弾薬工場は以前から我々に上手くいっていた。外国からの供給を当てにするこ

とが出来なかった時、そのことは一層我々にとって重要だった。

この戦争で我々の技術がどういう意味を持ったのかについて、若干ではあるが我々は明らかにすることができる。弾薬工場が真に果たしたことの全てを、我々は平和条約締結後に初めて十分、かつ完全に知ることになるう。

日本の陶磁器（3）

日本では磁器製造所が肥前から広まった。かくして加賀藩（中部日本の西海岸沿いで京都の北東）に一人の肥前焼職人が定住して、華やかな産業を築いた。当初は暗緑色や、深紅、そして黄色に色づけされた磁器が製造された。

約 1650 年以来、赤い下地への金彩色が出現したが、それは今日加賀物の特徴とみなされている。この時期、九谷においても最初の窯が出来た。この地で磁器用の粘土が発見され、概ねその土からこの地方の磁器が作られた。九谷は今日加賀産磁器の一般的に使われている名前である。古い時代の磁器は（柔らかい、象牙のような色調をもっていて、それと金や赤の彩色が極めてよく調和している。近代の白磁物には冷たい色調を和らげるために、更に深い褐色を用いたが、それによってずっと初期の頃の芸術的効果が獲得されているわけではない。金と赤で装飾されたものと並んで、更に一層色彩豊かに絵付けされた磁器も存在する。色付けはたいい厚く施され、彩色を造形的に際立たせている。九谷の磁器職人はかなりの技術的完成度を有し、それ故しばしば他の地域、例えば肥前などの磁器が絵付けのために送られてきている。加賀の磁器は、パリ万国博（1867 年）まではヨーロッパではほとんど知られていなかった。それというのも肥前物しか輸出されていなかったからである。日本では肥前物が浸透していて、我々がこの地の焼物店で出会うのはほとんど専らこの肥前である。

薩摩焼工房は薩摩の殿様が設立した。朝鮮出兵（1598）から戻った際、腕のいい朝鮮人陶工を連れ帰り、鹿児島（九州の西南）の近辺に移住させた。朝鮮人たちはごく最近までそこに日本人から厳格に隔離されたコロニーを形成していた。彼等はその地方で見つけられた土で諸々の試みをした。その成果は初期においては褐色の壺であった。後に彼等は苗代川の近辺で白い粘土を発見し、これを用いて 1630 年頃に薩摩の名で非常に有名になった陶器を製造した。製造に使用された土は固く、密度のある組成で、一種の半磁器と名付けることが出来よう。乾かした後にほどほどの温度で焼き、それから大量の上薬に浸し、二度目は高温で焼き上げる。さますと内部の塊と上薬が不均等に収縮し、その結果上薬は細かい網目状の裂け目に仕上がる。

つづく

徳島のアルバム

既にたくさん写され、また更に撮影されることになる写真を一つのアルバムにまとめて、各人に供して欲しい旨の要望が何度も寄せられている。そのためにともかく次の措置が採られた。

1. 我々の収容所の製本所がアルバム一冊を制作し、それをトクシマ・アンツアイガーの印刷所が F. シュミートのデザインによる表紙で装丁する。

2. 写真の下には番号を付けて、番号順に並べる。写真を希望する人は、自分の名前と写真の番号をケラー一等砲兵の元に申し出れば、万事取り計らってくれる。今月 20 日までにケラーの所へ出向くことが出来れば、彼がアルバムの注文も引き受けてくれる。

希望するならば、注文した写真を纏めてアルバムに貼り付ける。

写真はごく短期間しか交付されない。遅くなってからしか注文できない場合は、ヴェルナー副曹長の元へ出向かねばならない。彼の所に集めた写

真全てが陳列されている。製作費は通常の写真の場合はこれまで7 銭。大
き目の写真は勿論高くなる。アルバム代は 50 銭である。

写真はプロの写真屋の所で作成され、受け取る際には十分に吟味される
ので、保存の効く写真であると約束できる。他方、こうした事情を鑑みて
写真の注文に当っては前払いをお願いしたい。

リヒャルト・ワーグナー（3）

ワーグナーはドイツへ戻った当時には最悪の困窮状態から抜け出てい
た。音楽を愛好する大衆は彼の作品に充分満足し、オペラは上演される場
所ではどこでも大成功を収め、彼は多くの熱狂的な支持者と犠牲を惜しま
ぬ友人達を獲得した。とりわけ彼の強力な後援者となったのはバイエルン
国王ルートヴィヒ二世で、国王は最大限の寛大さをもって、生活面でのあ
らゆる不自由を彼から取り除いた。

それにも関わらずワーグナーはしばしば、また正当にも自分の運命の過
酷さを嘆いたとしても、全人であった彼ワーグナーは、このことをとりわ
け自ら具体化し、そして目標を高く掲げ、並はずれた意思の力でそれに向
かって努力した、と言わざるを得ない。加えて、彼には収入と支出のバラ
ンス感覚が欠如していた。

ワーグナーの高邁な計画を正に力強く支援したことで、その名が常に敬
われ続けるルートヴィヒ二世は、リヒャルトの改革文書感激して読んで
いた。そして 1864 年、18 歳でヴィッテルスバッハ家の王位に就くと、直
ちにワーグナーをミュンヘンへ呼び寄せた。ほどなく国王と芸術家を友情
の絆が繋ぎ、いまやワーグナーは芸術上の理想実現に歩みだすことが出来
た。新たな音楽学校が設立され、その学校では様式美に満ちた合唱、妙技
ばかりを追求するのではない芸術的なピアノ演奏、並びに自然性に適った

演劇術が生み出され、そのためにワーグナーの提案で有能な人物、例えばハンス・フォン・ビューローとその別れた妻コジマ、及びペーター・コルネリウスが招聘された。なおコジマは、後にワーグナーと結婚したリストの娘である。けれどもこのことは、能力の無い自国の男達が遠ざけられたことで、進歩性に欠けるイーザル河畔のアテネ¹の市民の憤りを煽った。彼等は常日頃から理想に燃えた若き国王が、湯水の如く浪費していることを懸念していた。そして今や国王が経費を負担して、ワーグナーが常に追求めてきた計画、新しい祝祭劇場をミュンヘンのために建てるつもりであると噂されると、一気に嵐が吹き起った。教皇権至上主義の新聞は国王の寵愛者ワーグナーが書いたものに不快感を示し、聖職者はこのルターの音楽家に腹を立て、貴族は国王が一市民階級の者を友人にしていると眉をひそめ、そして更にはスポーツよりも芸術に傾倒していると眉をひそめた。宮廷官吏は、普段なら国王の宮廷費と私有財産から彼等の手に残るものが損なわれていく事を恐れた。国王は「国の平安」のためには犠牲を払うことを決断してワーグナーを追い出した。しかしながら国王はルツェルン近郊のトリープシェンにワーグナーを訪ね、そこにワーグナーは住居を得た。

確かにルートヴィヒ二世には実に贅沢で、浪費的な傾向があったが、ワーグナーの計画の実現をその結果のひとつと考えてはいけない。あらゆる種類の音楽を上演するため祝祭劇場によって、全世界の音楽ファンが引き寄せられたであろう。その劇場では、それが正にワーグナーの理想であったが、国民の内の最もすぐれた芸術家たちが協力したであろう。また町はそこに増収の源泉を見出したことであろう。ワーグナーの豊かな実りをもたらす提案に、ずっと理解をもったバイロイトはそのことを示しているし、1904年にミュンヘンは、かつての遅れをプリンツレゲンテン劇場の建設によって取り戻したが、その劇場はワーグナーの計画に沿って建てられたものである。

古代ローマにとり憑かれたミュンヘンの新聞が驚いたことは、ルート

1 イーザル河畔のアテネ： ミュンヘンのこと。

ヴィヒ二世は作曲家が日々のパンの心配をしなくて創作できることを心に掛けていて、ワーグナーに安定した年俸を渡し、ワーグナーの忠実な友にして後援者であり続けたことである。

ワーグナーは事実その後、彼のオペラのリハーサルを指揮するために、実に頻繁にミュンヘンに赴いた。その他の点では彼はその強靱な意志の力により、今や信奉者の支援を受けた独自の資力でバイロイトに祝祭劇場を建設した。1874年彼はその地の彼の家『ヴァーンフリート』に移り、そして1876年8月13日から30日にかけて、記念上演として初めてすべてがワーグナーの計画に沿った、最良のスタッフによる『ニーベルングの指輪』の4オペラが（『ラインの黄金』1854年、『ヴァルキューレ』1856年、『ジークフリート』1869年、『神々の黄昏』1874年に完成）三度続けて、各々4夜に亘って上演された。皇帝ヴィルヘルム一世、国王ルートヴィヒ二世、バーデンのフリードリヒ大公、ブラジル皇帝、メクレンブルク大公、アンハルト公爵やその他の王侯がこれらの初演に姿を見せた。多分ワーグナーはそのことによっても何ら金銭上の成果を得なかったであろう。しかし、そのことで彼は、まだ生前中に自分の最高の計画が実現したのを目にしたのである。彼は1883年に心臓の病でヴェネツィアに没した。高齢であっても彼は彼の最後にして最高の作品『パルジファル』（1880年完成）を創作し、その上演は数年前に初めて舞台にかけられた。

完

ミ サ

ミサが先週の日曜に、いつもと同じように素晴らしく、かつ荘厳に執り行われた。もう一度シュレーダー博士を囲んで会えることを誰もが喜んだ。彼は我々に他の収容所からの挨拶をもたらし、我々からの挨拶を戦友たちへ持ち帰ってくれた。

収容所当局はこの度我々のオーケストラに、ミサの終了後にシュレーダー博士のためにいくつかの音楽作品を披露することを許可してくれた。それで我々の音楽家達はもちろん一度客の前で脚光を浴びることをとても喜んでいた。残念ながら予定されていた広範なプログラムは、時間不足で最後まで遂行されなかった。しかしその僅かなものにもシュレーダー博士は明らかに大いに喜ばれて、聴いた演奏については、特に我々のコーラスの出来栄えについては賞賛の意を表した。我々もミサに際して力強いコーラスを初めて聴き、賛美歌 23 番、並びに『オランダ人の感謝の祈り』の実に傑出した良い演奏は我々の期待以上であった、と告白せねばなるまい。今や誇らしく断言できることは、我々は他の収容所と比べて、最大で最良のオーケストラに留まらず、今はそう簡単には凌駕出来ないコーラスをも持っていることだ。

コンサート（1915 年 10 月 10 日）

- 1) 「ヨルク行進曲」
 - 2) 「ビンファックの告白」 Fr. トメ
 - 3) 「ヴァイオリン奏者のホームシック」 ケーゲル
ヴァイオリンとオーケストラのためのレントラー
 - 4) 「アンナ、お前はどうしたのだ！」 レオ・ファル
オペレッタ『愛しきアウグスチン』からのモチーフによるワルツ
 - 5) 「剣士の入場」 勝利の行進 J. フーチク
-

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 49 問の解答

1. Sd4 - e6 任意
2. T, S, L, 詰み

第 50 問の解答

1. Lg2 - f1 Kc3 - d3
2. Db8 - g3+ Kd3 - e4
3. Dg3 - f3 詰み

第 50 問

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. c5 × d4 | 1. La1 - b2 |
| 2. Db8 - f8 任意 | 2. Db8 - g3+ Se2 x g3 |
| 3. D 詰み | 3. Ta4 × c4 詰み |

他の変化も容易

正解を寄せたのは、ベーマー、ヨーゼフ・ヴェーバーとバウムガルテンである。

第 51 問 白 : Kb1, Db7, Sa3, a4

黒 : Kb3, Bb4, b5

2 手詰め

第 52 問 白 : Kg1, Dg5, Ta2, Ld7, e5, Sg8, Bb6, c3, h3

黒 : Ke4, Lh1, Sb2, Ba3, c4, g2, g7

2 手詰め

灰緑色の制服の海軍（１）

オットー・フォン・ゴットベルク

（この論文は『新ハンブルク新聞』から転載したものであるが、我々の読者には格別関心のあるところであろう。というのも彼はなにしろ数々の海軍砲兵連隊が所属している海軍部隊について報告しているからである。）

我々の西部陸軍があっという間に侵攻してたちまちアントワープを占領し、ベルギーの海岸の掃討を約束すると、海軍司令部は陸上作戦の側面擁護、並びにイギリスに対する攻撃のための新たな基地の設営を準備し始めた。キールとヴィルヘルムスハーフェンに海軍師団編成への海軍司令部の命令は、人気の海上艦隊での戦闘を夢見ていた船乗り達の希望を打ち壊した。しかし今日、艦上にずっといた者たちがフランドルでの地上軍務へと押し寄せている。この８月下旬の命令の遂行は、新たな組織上の輝かしい成績を挙げて一瞬で実行された。平時には我々が帝国軍港の守備軍としてのみ考えられていた海軍歩兵部隊でさえ、敵地における陸戦隊として用いるための装備を初めて施された。新たに創設されるべき水兵連隊にはしかし、装備の他に地上戦でのいかなる経験も不足している。けれども海の男の適応力はあらゆる困難を克服した。陸戦隊のならず者についての書物でのみ耳にしていた将校連は、彼等を自分の部隊のために編成した。将校連は野戦砲兵隊を設立し、馬車馬を軍馬として馴れさせ、かつては駄馬にも乗ったことのない連中を即席で捕えて運転手や砲兵として養成し、後に戦闘でそれらの即興の産物が敵を沈黙させるのを体験した。弾薬補給部隊、鉄道中隊、野戦糧秣隊及び工兵中隊が復活し、全ての人々にたちまち敵から身を守る機会がやって来た。海軍部隊の鉄道隊員には、海岸に沿って走るベルギーの海岸鉄道を利用するために、とりわけ我々の海岸堡壘での仕事を始める任務が与えられた。専門家の驚きを引き起こしたのは工兵の仕事ぶりである。彼等はたいい水雷艇の乗組員、つまり技師や手仕事に長けた者たちのエリート群から選ばれていた。新しい部隊に欠けているもの

は経験と、リュックサックの底まで詰めた器材、自転車及び食器である。しかし喜びに溢れた熱意と献身的な任務への忠誠心が奇跡を成し遂げた。

早くも9月3日に師団司令部は戦場のブリュッセルに移動した。司令官はフォン・シュレーダー海軍大将で、彼は古いプロイセンの将校特有の頑なで無愛想なタイプとして海軍では知られていて、鉄のように厳格ではあるが温かい心の持ち主だった。まだ機械科部隊は隊列も組まずに、野戦炊事車やテントもなしでベルギーの首都に集結するために、この部隊は、個々の連隊単位やそれどころか大隊単位で、司令部のあとを追った。しかし、ブリュッセルの北東で敵の攻撃を退けていた陸軍の諸部隊は、新たな任務へ向って進軍せねばならなかった。この陸軍部隊が明け渡した陣地へ軍司令部は、できたての海軍部隊を列車輸送によって投入した。ここで少なくとも指導者は落ち着いて、部隊を組織として鍛え上げ、兵士たちを地上戦のために養成出来ると信じた。しかし大いなる教師である戦争は、この師団すらもその苛酷な学校へと連れ去ろうとした。戦闘に馴染みがなく、まだ装備も充分ではない部隊に対して、渾身の思いがけない攻撃が向けられた。それはアルベルト国王がアントワープから5個師団を引き連れてドイツ軍の後方連絡部隊へ向けたものだった。支援部隊がやって来るまで、粘り強い数日間に及ぶ戦闘で、敵の攻撃を阻むことが出来たのは防塁ではなくて、海軍師団と陸軍後備軍旅団によって形成された、まったくか細く覚束ない戦列によってであった。戦列が引き裂かれたり、よろけたりしてはならないことを意識して、陸軍と海軍は力をあわせて、ひるむことなく持ちこたえて、優勢な軍勢に勇敢に立ち向かった。

つづく

シュピーゲル（鏡）！



1915 年 10 月 10

日付け

『トクシマ・アン
ツアイガー』第 2
巻第 3 号への
ユーモラスな付録

ロイター情報

我々の飛行家の一人はドイツ軍
部隊への奥深い洞察を
加えることに成功
した。





- ジョニー²： なんと毎日 1500 隻が、
入港するとは、ちっぽけじゃないよ、
ドイツの潜水艦隊は。
- ミッヒェル： うん、その数字は多分合っているけど、
君が冷静に考えれば、
君にもしだいにわかってくるさ、
それがトン数のことだと。
- ジョニー： そうだとすると、それは大した違いはないさ
僕はなにしろあらゆるものを
すでに外国に注文したんだ。
君も知っているように、僕には金がある。
こういう噂を聞いているけれど、
君がもう飢えに苦しんでいる間に、
君の力は尽き果てている。

2 「ジョニー」はイギリス人、「ミヒェル」はドイツ人を意味する。

ロイター 「ドイツのUボート封鎖はこけおどしさ！」



ミッヒェル： 金と糧食がお先真っ暗で
君の国は実に悲しそうだ
君たちは無傷でいながら
新たな税を考えだしたからだ。
僕の国では貧者も富者も
新しい戦時公債に応募している、
嬉しいことには、ねえ君、
20 億もの超過応募だ。

ジョニー： 新しい税金についての話で
本当に君に断言できるのは
ビールとウイスキーが以前と同様
1 ペニーもかからないことだ。

ミッヒェル： 最後の二つのことは
君たち自身で出来ることだ。
いつもはどういう状態なのかを
僕は思い描いてみたんだよ。
僕等の U ボートは、たとえこけおどしでも
君たちを最後には消耗させる。

